

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 28 人

② 算数 28 人

5 留意事項

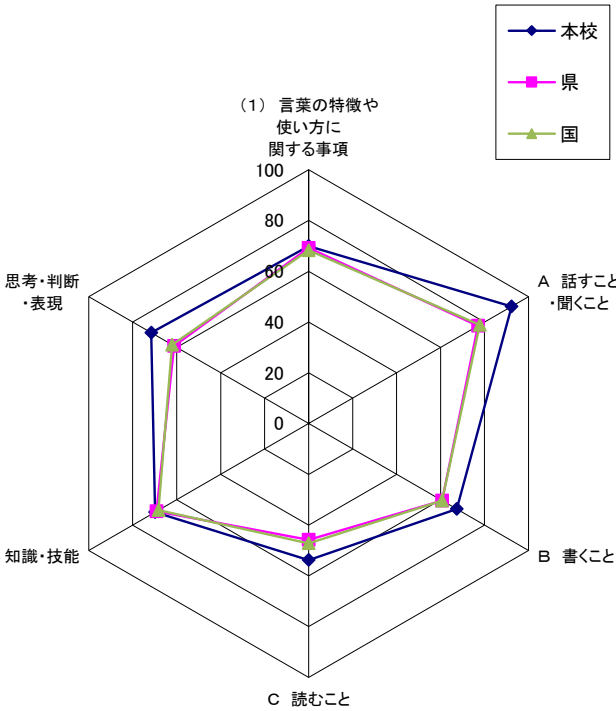
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.9	69.2	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	92.3	77.0	77.8
	B 書くこと	67.3	60.7	60.7
	C 読むこと	53.8	45.8	47.2
観点	知識・技能	69.9	69.2	68.3
	思考・判断・表現	71.6	61.2	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

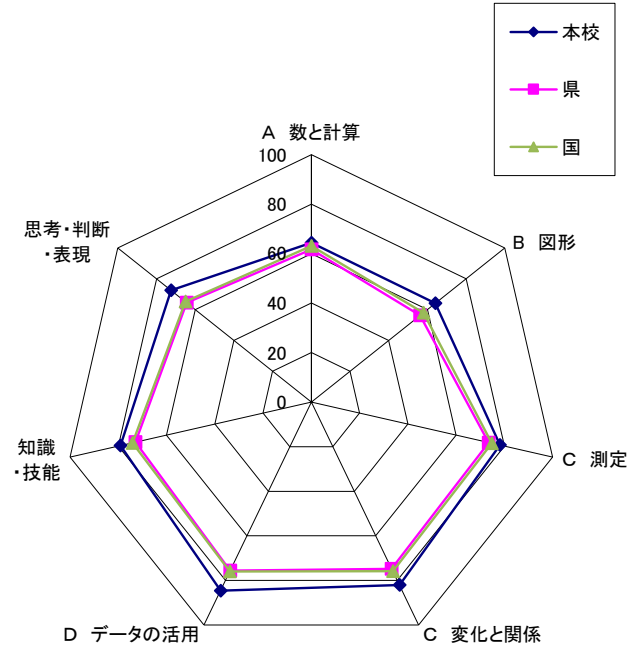
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を0.7ポイント上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、全国の平均をどれも上回っている。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率が低かった。 ●漢字を文の中で正しく使うことには、個人差が見られる。	・主語と述語の使い方について復習し、文章の中で繰り返し学習することによって定着を図る。 ・漢字をさらに正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習漢字の習得を図る。
A 話すこと・聞くこと	・平均正答率は、県の平均を15.3ポイント上回っている。 ○資料を用いた目的を理解することや、目的に応じ、資料を使って話すことについて、9割以上の児童が正しく理解している。	・話のテーマに対してペアやグループで話し合う場を継続して設けるとともに、相手の意図を捉えながら自分の意見と比べる活動の機会を増やしていく。
B 書くこと	・平均正答率は、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成を考える問題の正答率が低かった。	・自分の主張をより明確に伝えられるような文章構成ができるようにするために、課題作文や日記指導などを取り入れ、書く練習を日常的に行う。 ・他教科でも、必要な情報を集め、まとめる活動を取り入れる。
C 読むこと	・平均正答率は、県の平均を8.0ポイント上回っている。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題はよくできている。 ●目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報見付けたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したりする記述の問題は、全国平均を上回っているものの正答率が全体に低い傾向にある。	・普段から辞典や図書、新聞記事などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。 ・朝の学習の読書の時間を確保したり、図書の利用を推進したりして読むことの良さを味わわせ、学年の発達段階に合わせた本が読めるように指導する。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	64.4	61.7	63.1
	B 図形	64.1	56.2	57.9
	C 測定	78.2	73.5	74.8
	C 変化と関係	82.1	74.8	75.9
	D データの活用	84.6	75.6	76.0
観点	知識・技能	79.1	72.9	74.1
	思考・判断・表現	72.5	64.4	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、県の平均を2.7ポイント上回っている。 ○余りのあるわり算の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題の正答率が高い。 ●商が1より小さくなる等分除の場面の正答率が、県の平均に比べ10.0ポイント近く下回り、42.3%と課題が残った。	・題意を読み取り、正しく式に表せるように、計算練習だけでなく、文章題を用いたミニテストを定期的実施する。 ・立式が正しいかどうかを確認する習慣、線分図などを用い確認できるようにする。
B 図形	○平均正答率は、県の平均を7.9ポイント上回っている。 ○図形の問題はどれも県の正答率の平均を上回っている。中でも、特に「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」は正答率が15.0ポイント上回っていた。	・面積を求める公式など、基本的な図形の知識の定着を図り、それらをどのように生かして応用できるのか、具体的な場面を取り上げるようにする。 ・面積の公式を求める際には、公式を導くまでに、図形を分解したり、構成し直したりと具体的な操作活動を通して、既習事項を用いて求積できることを繰り返し学習する機会を設ける。
C 測定	○平均正答率は、県の平均を4.7ポイント上回っている。 ○条件に合う時刻を求める問題の正答率が100%と県の正答率を10.0ポイント以上上回っている。	・資料を整理し、必要な数値を読み取る学習においては、資料から分かることを丁寧に話し合わせ、適切な数値を選択できるように指導していく。 ・資料と式を関連付けながら、どのように求めることができるのかを言葉で説明させたり、文で記述させたりする機会を設ける。
C 変化と関係	○平均正答率は、県の平均を7.3ポイント上回っている。 ○どの問題も県の正答率の平均を上回っている。中でも、「2つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ」は、19.5ポイント上回っていた。	・どんな場面なのかをイメージさせるために、具体場面にある2つの数量を基に2つの数量の対応の仕方や変わり方を具体的に調べさせるようにする。そこから、立式し数値の確認をできるように指導していく。 ・基礎・基本の定着を図るため問題演習を行ったり、理科や社会の学習においても積極的に指導したりしていく。
D データの活用	○平均正答率は、県の平均を9.0ポイント上回っている。 ○どの問題でも県の正答率の平均を上回っている。	・算数の授業だけでなく、理科や調べ学習などの機会を逃さず、グラフや表を使ってデータを分類する活動を意識的に取り入れていく。 ・複数の資料を関連付けて結論を出す事象を扱い、複数の資料から分かることを話し合う場面を意図的に設ける。それにより、データを注意深く読み取る力や多面的・批判的に考える力を育むようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を食べているか」という質問について、100%の児童が肯定的な回答をしている。引き続き指導していきたい。
 ○「学校へ行くのは楽しいと思いますか」では、92.8%の児童が肯定的な回答をしていて、県平均を約7.0%上回っている。引き続き学校生活が楽しいものになるよう支援していきたい。
 ○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」では、100%の児童が肯定的回答をしている。今後も、学習の基礎基本の定着を図り、話し合い活動を充実させていきたい。
 ●「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」では、78.4%の児童が肯定的な回答をしているが、県平均を約9%下回っている。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」では、53.6%の児童が肯定的な回答をしているが、県平均を約22パーセント下回っている。自分で何かに挑戦しようとする気持ちや、そのために努力し続ける態度を伸ばしていけるよう、日々の学校生活の中での支援に力を入れたい。

宇都宮市立平石北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成 ～ I want to ～ のある授業を目指して～	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫し、自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」では、肯定的回答が県平均を上回った。ペアやグループで活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを伝えることができるようになった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
知識・技能を活用する力に課題が見られる。	習得した知識及び技能を活用しながら課題を探究する力を育成する。	教科書の問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用しながら、自ら解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。「できた」という成果が目に見えるようにしたり、共に学び合える仲間を育てたりしながら、学習に対して粘り強く取り組めるようにする。